

## 第 25 回 設楽ダム猛禽類検討会

### 議事概要

日時：令和 7 年 11 月 27 日（木）14：00～16：00

#### 1. 設楽ダム猛禽類検討会の経緯と役割

- これまでの検討会経緯等について報告した。

#### 2. 令和 7 年（2025 年）繁殖シーズンの調査結果

- クマタカ A ペアについては、1～2 月に雌雄の交尾と監視とまり、3～4 月に既知営巣木周辺でペアの鳴き交わしなどの繁殖行動を確認したが、その後 5 月には推定営巣エリアでペアの出現はあったものの繁殖継続を示す行動がなく、6 月の補足のモニタリング調査では広範囲でペアの連れ合い飛行の確認であった。7 月の林内踏査では、営巣木や幼鳥の鳴き声等も確認できなかったことから、繁殖は途中で失敗したと推察したことを報告した。
- クマタカ B ペアについては、4 月に既知営巣地において、抱卵と雌雄の抱卵交代を確認し、5 月及び 6 月の補足調査でも雌による営巣地への出入り、監視とまりやカラスの追い払いなどの継続的な繁殖行動を確認した。しかし、9 月の林内踏査において幼鳥の鳴き声等が確認されず、巣立ち前の羽根を複数枚確認したことから、繁殖は巣立ち前の雛が巣から落下したことにより、途中で失敗したと推察したことを報告した。
- クマタカ C ペアは、去年の幼鳥を養育する行動があり、今シーズンの繁殖行動は確認されていないことを報告した。
- 令和 7（2025）年高利用域は、クマタカ A ペアとクマタカ B ペアではいずれも北側と西側で拡大し、クマタカ C ペアでは変化はみられなかったことを報告した。クマタカ A ペアとクマタカ B ペアの高利用域の拡大は、侵入個体への追跡・攻撃によるもので、今後も繁殖成否との関連性について、注目していくことを報告した。
- クマタカの餌動物については、目視調査と食痕調査から、一般鳥類 74 種のほか、両生類・爬虫類・哺乳類 11 種を確認し、各地区とも餌環境が横ばいで維持されていることを報告した。また、新たな餌動物として、大名倉の営巣地でムササビの骨を確認したことを報告した。

- クマタカ以外の猛禽類については、ハチクマ、オオタカ、ハヤブサ等重要な8種の生息を確認し、そのうちサシバ1ペアの繁殖を前年と同様の場所で確認したことを報告した。
- クマタカ等猛禽類のモニタリング結果と繁殖状況について、報告内容を了承いただいた。引き続き、個体識別も含め、詳細な生息状況の情報を得ていく必要があるとの意見をいただいた。

### 3. 令和7年（2025年）繁殖シーズンの工事に対する環境保全措置等実施結果

- コアエリア内で実施された工事に対し、監視調査を行い、工事実施期間中の定点調査では、忌避・警戒と思われるような行動は確認されなかったこと、クマタカAペア及びBペアともに、工事実施日と工事休止日を比較して出現状況に明確な違いは確認されなかったことを報告した。
- クマタカAペア及びBペアについては、直近の営巣木から500m以内での工事があったため、低騒音・低振動の建設機械の使用、工事用車両のアイドリング、作業員の営巣地付近への不必要な立ち入り制限の徹底等を行ったことを報告した。
- 工事に対する環境保全措置等実施結果について、報告内容を了承いただいた。
- 繁殖シーズンにおける工事では、従来どおり工事場所、期間、工種・内容等を確認していく以外に、営巣地付近に入った工事の人数（簡便な方法）もデータの蓄積として確認しておくことよとの意見をいただいた。
- 工事に対する警戒・忌避行動等については、ごく稀な状況で見られることから、それがなくても工事に対する影響有無は慎重に検討すべきとの意見をいただいた。

### 4. 令和7年（2025年）繁殖シーズンにおける繁殖失敗の要因分析

- 繁殖失敗の要因について、断定することはできないが、モニタリング調査及び林内踏査の結果等より、以下のとおり分析したことを報告した。
- クマタカAペアについては、繁殖行動が継続されない理由として、侵入個体の出現とそれを攻撃する行動が多いほか、平成21年以降個体の更新がないことなどから、前年と同様、高齢化と侵入個体の出現等による繁殖への影響が懸念されることを報告した。また、コアエリア内において顕著な森林整備が確認されないことから、採餌環境の質の低下も可能性として考えられることを報告した。

- クマタカ B ペアの繁殖については、途中までは順調であったとみられ、繁殖失敗の要因は、巣立ち前の雛が巣から落下したことが引き金となり、その後は捕食者による影響も懸念されることを報告した。
- クマタカ C ペアは、昨年生まれの幼鳥を養育することを優先したことから、今シーズンは繁殖しなかったことを報告した。
- 繁殖状況の考察及び繁殖失敗の要因分析について、報告内容を概ね了承いただいた。ただし、クマタカ等猛禽類への影響は生態的観点も含めて非常に判断が難しいことから、今後も直接的・間接的な繁殖への影響を慎重に検討していくべきとの意見をいただいた。

## 5. 令和8年(2026年)繁殖シーズンの調査計画(案)

- 全体計画として、1月から3月までの期間に繁殖利用巣の特定を目指し、その後、4月まで巣と繁殖行動の把握を行う方針とし、5月以降は4月までの調査状況を踏まえた対応とする方針について了解を得た。
- クマタカ A ペアは、繁殖行動が不明確なことから、抱卵期までは2定点での定点観察により営巣地を絞り込み、4月にはカメラ1地点と定点観察1地点で調査を行う方針について了解を得た。
- クマタカ B ペアは、令和5年と7年に既知巣(KON6)を使用したことから、同巣をカメラにより監視しながら、定点観察1地点を併用し、既知営巣地周辺の利用状況の監視を重点的に行う方針について了解を得た。
- クマタカ C ペアは、令和6年使用の巣(KSN5)をカメラにより監視しながら、定点観察1地点を併用し、既知営巣地周辺の利用状況の監視を重点的に行う方針について了解を得た。
- その他の猛禽類については、クマタカ調査時に留意し、重要な種について記録し、生息状況・繁殖状況の把握に努める方針について了解を得た。
- 餌動物について、クマタカの餌動物となる鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類について前年と同様に記録していくことについて了解を得た。
- 調査期間中の現地調査計画及び調査結果概要は、その都度専門家に報告し、必要に応じて意見・助言などを得ながらモニタリング調査を進めることについて了解を得た。
- 調査計画として、目視及びカメラによる監視以外に、繁殖終了後等影響に配慮したうえで、生息地を上空から撮影して確認することについて意見をいただいた。

- クマタカ A ペアについて、付替林道の工事が継続される1～2年間はしっかり監視していく必要があり、営巣地等の情報を専門家と共有し、必要に応じて意見・助言を得ながらモニタリングを進めていくようにとの意見をいただいた。

## 6. 令和8年（2026年）繁殖シーズンの工事に対する環境保全措置等計画（案）

- クマタカ A ペアは、直近の営巣木から500m内にて予定される埋蔵文化財調査1箇所について、騒音等の影響がほとんどないことから、個別の環境保全措置を当初予定せず、モニタリング調査（定点観察）によりクマタカの忌避・警戒行動の有無を確認しながら進めることについて了解を得た。
- クマタカ B ペアは、直近の営巣木から500m内にて予定される工事が現時点で予定されないことから、モニタリング調査（定点観察等）によりクマタカの忌避・警戒行動の有無を確認することについて了解を得た。なお、工事計画の変更などが確認され次第、個別措置の検討の必要性をその都度確認し、該当あれば速やかに検討を行うことについて了解を得た。

## 7. その他

- 全国的な同時多発的に発生しているクマ問題について、現在は被害事例と駆除方法ばかりが報道されているが、クマが人間活動エリアに降りてくることが少なくなるような対策を皆の知恵をあわせて協議していくべきではないかとの意見「クマ被害についての考察」が紹介された。

以上